

国語科文章教材における「社会的発問」を通じた社会的思考力の育成に関する社会学的研究
ー中学校の授業実践からー

山田美都雄（宮城教育大学 アドミッションオフィス 准教授）

1. 研究の目的

本研究の目的は、中学校国語科教育の授業実践において文章教材（説明的文章教材）を用いる単元の学習に際し、具体的な社会的論点を提示する「社会的発問」という手法を提起し、この手法が生徒の社会に対する理解や想像力、社会的思考力の形成に与える効果を、授業実践内の成果物及び生徒アンケート結果等から検証することにある。※図の研究モデルを参照。

2. 本研究の特徴と意義

本研究の特徴は、教育社会学を専門とする研究代表者らと、共同研究者である中学校国語科教諭らで構成される研究チームが、授業実践の次元において共同研究を遂行する点にあるといえる。

また、本研究の意義は、「社会に開かれた教育課程」というワードが現代の教育課題として重視され、また、学習内容を社会と結び付けて理解するといった志向性が求められる昨今の現況において、授業実践レベルから「社会に対する関連性の認識（レリヴェンス認識）」を育成するアプローチの効果を検証する点にある。

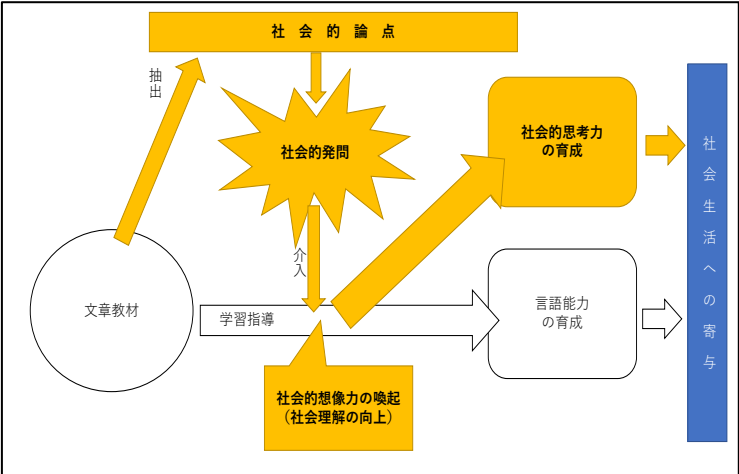


図 本研究における「社会的発問」の研究モデル

3. 本研究の方法

本研究では、①「社会的発問」を用いる授業実践研究として、研究代表者がゲスト・スピーカーの立ち位置で生徒に授業を行った。そして、②当授業実践の効果を把握するために事前・事後アンケートを実施した。調査対象校は、X 県における国立の A 中学校と市立の B 中学校の 2 校であり、分析対象は、A 中学校が第一学年 139 名、B 中学校が第二学年 86 名である。なお、授業実践及びアンケートは、2024 年 12 月～2025 年 2 月にかけて行った。

4. 本研究の結果（アンケートデータ分析結果からの抜粋）

①授業実践による国語科の説明文教材に対する実社会との関連性認識への効果

A 中学校					B 中学校				
		事後					事後		
		肯定	否定	全体			肯定	否定	全体
事前	肯定(N=93)	96.8%	3.2%	100.0%	事前	肯定(N=42)	95.2%	4.8%	100.0%
	否定(N=26)	80.8%	19.2%	100.0%		否定(N=29)	75.9%	24.1%	100.0%
	合計(N=119)	93.3%	6.7%	100.0%		合計(N=71)	87.3%	12.7%	100.0%
注:カイ二乗値=8.2, 有意確率p=0.012(両側検定)					注:カイ二乗値=5.8, 有意確率p=0.027(両側検定)				

事前アンケート、事後アンケートの両方に回答した生徒を対象に、学校別に、「説明文」の授業で学ぶ内容と実社会とのつながりを問う回答について事前・事後のクロス集計分析を行ったところ、実施前は否定回答であったうちの 7 割 5 分～8 割程度が肯定回答へ転じていた。このことから、本授業実践には社会との関連性認識を促す影響力があったと推測される。

5. 研究成果のまとめと今後の課題

国語科説明的文章教材において、「社会的発問」を提起することによって、生徒の社会に対する志向性（関連性の認識）を高めることは可能であると推測される。ただしそのためには、教材の扱い方に、社会を具体的に想起させる「しかけ」が必要である（授業実践にかかる知見から）。また、本知見については、今後さらなる研究を蓄積し検証を図ることが求められる。